

群読台本【義盛】

伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄って、「御定ぞ、つかまつれ。」と言ひければ、
やや強く そうっと ためる感じで 力強く 普通に

[読み方の工夫]

- とにかくはっきり言う
- うねりをつける

群読台本【扇・舟・風・かぶら】

(舟) 舟は、揺り上げ揺りする漂へば、(扇) 扇もくしに定まらずひらめいたり。
切らずに なめらかに つなげて はっきり上げ調子

(風) 風も少し吹き弱り、(扇) 扇も射よげにぞなつたりける。
音量を下げて 落ち着いて 下がらないように力強く

(かぶら) 小兵といふちやう、十二束三伏、弓は強し、
強く

(かぶら) 浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、
強調

ひいふつとぞ射切つたる。
ゆっくり 力強く

(かぶら) かぶらは海へ入りければ、(扇) 扇は空へぞ上がりける。
ゆっくり 間

(扇) しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へ

さつとぞ散つたりける。
強弱をつけて

(かぶら) よっぴいて、しや頸の骨をひやうふつと射て、舟底へさかさまに射倒す。
力強く 力強く

[読み方の工夫]

- 扇が話の中心、題名にもなっている
- 舟はうねりの感じを出すように

群読台本【男】

あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟のうちより、年五十
なめらかに うれしそうに 満足そうに

ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持つたるが、扇立てたりける所
弱いおじいさん

に立って舞ひしめたり。
平家は貴族